

（お尻セリット）
最ッ高キ〜♡

もうっ!!♡
いいから♡
早く射精してっ♡



「でさー、○○○ちゃんがねー？」

「う、うん……」

「んもー、さつきからどうしたの？
ずっとボーツとして……なんだか元気ないね」

「ちよ、ちよつと……ね……
学校でやなことが……」

「……ふうん……
よおし、それじゃあ……」

「ほらほら、こっち来て♡」

「わっ、わ……!!」

「服も……脱いでっ♡」

バサッ!!
♡

「君のだあいすきな：
メルのパイズリで癒したげる♡」

「うっ…♡」



「これでたあっぷり：
気持ちよくなつてねっ♡」



「どお？
久しぶりにやったけど…
メル、上手かなあ…？♡」

「うっ…うん!!
すっごく気持ちいい…♡」



「そっかあ、よかったあ♡
君が幸せそうにしてるの
メルすっごく嬉しい♡」

「メルちゃん…♡」



「うっ…ふーっ♡ふーっ♡」

「あーあ、腰ガクガクさせちゃって…♡」

「もう出そうなのお？」



「だ、だって…♡
久しぶりだしっ…♡
くうっ…!!」

「はあり…♡…早くない？
メルもつとパイズリご奉仕
してあげたかったのにい…♡」



「……いいよ♡
メルのおっぱいの中にい…
たっくさんお漏らし射精しよつか♡」

「メルちゃん…っ♡」



「ほおくらほら♡
ぴゅっ♡ぴゅっ♡」

「で、出ちやううっ!!♡」



「ぐううううう…!!」

「あ、出てる出てる…♡」



「ぴゅっぴゅきもち〜ね〜♡」

「ふーっ…ふーっ♡」

ぷくっ♡

ガク…♡

ガク…♡



「……はい、お疲れ様♡
気持ちよかった?」

「う、うん…
気持ちよかったよ…♡」

「あ、ありがとう…♡」



「それで……
学校であつた嫌なことってなんなの？」

「う……い、言わないとダメ……？」

「ダメ!!
メル、君の辛そうな顔見たくないもん!!」

「いいから言つて!!この前みたいに
メルが解決してあげるから♡」

「メルは天才ヴァンパイアだもん♡」

「う、うん……
……実は……」

数日後……

「うつほお〜…♡
めっちや気ン持ちい〜…♡」

「……ッ……」

ズ

ズ

ズ

グ

ド

バ

ズ

(なんでこんなことに……ッ……)

(○○くんへのいじめを止めるよう、
説得してたはず……なのに……)

(急に……『俺は理事長の甥っ子なんだ』だとか……)

(『俺に逆らったらアイツは
退学することになる』だとか……)



（そんなこと言われたら……
逆らえないじゃん……）

（私はどうなつても構わないけど……
○○くんを盾にされたら……ッ）

（……本当に最悪……
いじめを止めさせる為とはいえ……）

（こんなクズの……
性処理道具にならないといけないなんて……）



「くぅ〜…♡

気に食わねえザコオスの女に
パイズリ奉仕させんのたまんねっ…♡」

「精液グングン作られるわ…♡」

へっ♡

（何言ってるのもお…
ほんつとりに最悪…!!）



(それにしても…何っ…これ…ッ
ガツチガチで気持ち悪い…ッ…♡)

(○○くんの可愛らしいのと全然違う…♡)

(すっごい、なっつつがあ…♡)

(ゴム越しなのに
すっごいオスの匂い…♡)

ビッ…♡

ビキ♡

ビキ♡

(○○くんの何倍あるんだろ…?
いやいや!!そんなこと思っちゃダメ!!)

(で、でも…♡)



「何ガン見してんだよ、オイ♡」

「あの雑魚のとは
全然違うもんだから驚いてる？ W」



「そつ、そんなことはないですから!!」

「彼のはもつとかつこよくてつ
おつきくてつ、その、硬いですっ!!」

ズーッ

ハハ

「ふうーん♡」

はいはい



「そういうの、
いつ、いいですから!!」

「早く出してっ、終わりにしてください!!」

「うおっ!!」

「すっげ…っ♡
さっきまでのパイズリと…
全ッ然違う…♡」

「やっべえ…♡これが本気ズリ…♡」



「ああ…っ…♡

こんなのっ…すぐ出ちまう…っ♡」

「もつと堪能してたいのにつ…♡」

(…ビクビク跳ねてきた…っ…
もう出そうなのかな…)

(…っ…早く出せ早く出せっ…♡)



「出るっ!!」



「……ん？」



「え……ええ……？」

「ふーっ…ふーっ♡」

ホカーン



「めっ…ちや出たあ…
本気パイズリやべえ…♡」

ゴ…♡

アプ…♡



(すっ…ごお…♡)

(○○くんの何倍…出してらんだらう…♡)

(ザーメンってこんなに出るんだ…♡
それに量…すっご…♡)

(あ…♡…ゴム越しなのに
すっごいあつつう…♡)

(嫌なはずなのに
ドキドキしちゃう…♡)



「あーやつべ…
まだまだバツキバキだわ…♡」

「……まだまだ休ませねえからな…♡
……メル♡」

「……よ、呼び捨てやめてくださいつ…!!」

ムム

ムッ…









「ふーっ…♡
ふーっ…♡」

「生ッ…やっべえ…♡」

「もちもちエロ肉
直に吸い付くっ…♡」

「ゴム越しとは
比べモンになんねっ…♡」



(生でするの…すつご…♡
熱さも硬さも直接分かつちやう…♡)

(本当はダメなのに…♡
おマンコキュンキュンするっ…♡)

(こ、こんなはずつとパイズリしてたら…
我慢出来なくなつちやう…っ…♡)



「そ、そういう感想いいですから…!!
早く出しちゃって…ください…!!」

「くう…ツツツツ♡」



キラキラ

イラビミ

バタ♡

ダッパ♡

ヒョド♡

グモ♡

ズ♡

グモ♡

グモ♡

グモ♡

グモ♡

「生の…ッ本気ズリ…♡
やっべえっ…♡」

「あークソッッ♡」



「射精るっ…!!」

「わっ…♡」



「ぐっ♡」

「びゅんびゅん♡」

「びゅんびゅん♡」

「ぐっ♡」

「ぐっ♡」

「はーっ…はあっ…♡」



(生ザーメン……♡)

勢いも……量も……熱さも……匂いも……♡)

(なにかもかも……全部すっごお……♡)

(こんなの……比べるまでもないよお……)

(このつよおい匂いで……
クラクラしてきちゃった……♡)



「ふー…♡ふー…♡
気持ちよかったあ…♡」

「…もうお前…絶対に
手放さねーからな…♡」

ギミ♡

「……なんですか、それ…♡」



「もう、これつきりですから…♡」



「うっ…♡ふーっ…♡」

「…ってことがあつてね〜？
メルがアイツに、ガツンとお説教してきたの♡」

「もういじめられることはないから♡
安心して学校生活送ってね♡」



「うっ、うん♡

あ、ありがとねっ…♡メルちゃん…♡」

「ふふっ、喜んでくれて嬉しい♡」



「っっ…!!
あ、安心したから…気が緩んじやつて…
出…出ちゃ…うっ…♡」

「……え？」



「も、もう出ちゃったんだ…?」

「ふー…ふー…♡
う、うん…♡」

「そ…そっか…」

!?

ふっぴ♡



(精液、出たのに気付かないくらい少ないし…
匂いも、熱さもそんなにない…)

(勢いも弱いし、全然ドキドキしない…)

(ちんちんも…メルのおっぱいに隠れちゃう…
…アイツ…あの人のと、比べちゃうと…♡)



「メルちゃん…これからも
…よろしくね…♡」

「これから…も…う、うん…」

「メ、メルが守ってあげる…ね…?」

（なんか……）

（守られてばっかで情けないし……
オスとしての強さ、全然感じない……）

（○○くんに……失望、しちやったかも……）

（『あの人』……ならなあ……♡）

キス♡♡